

災害時トイレ対策講座について

●災害時のトイレ問題解消に向けた取り組み

【災害時のトイレ問題とは】

大規模地震が発生した場合、トイレに必要なインフラ機能が停止することで、長期に渡ってトイレが使用できなくなる問題のことで、トイレの衛生環境が不十分だと被災者の避難生活を悪化させ、健康被害はもちろんのこと感染症が拡がる可能性などがあり、汚水が溢れると地域全体の衛生環境も悪化し、ひいては震災関連死につながる可能性を含む、命にかかわる重大な問題でもあります。

（災害時のトイレ問題に関する具体的な問題点）

●過去の経験上、災害時（震度6以上の地震）は、水洗トイレが使用できなくなり、無理にトイレを使用すれば汚水（糞尿）が逆流して溢れ出ます。災害時のトイレ対策は自らが行う必要（自助）があり、具体的なトイレ対策の周知をすすめる必要があります。

●避難所等に設置される仮設トイレは、陸路で運ばれるため設置までに時間がかかります。また、仮設トイレのし尿収集処理を当協会は第一義的に担っておりますが当協会が保有しているバキューム車は7台（R6.4.1現在）であり、仮設トイレの処理が追い付かない可能性もあります。災害が発生した時は、仮設トイレだけでなく、携帯トイレを活用する必要がありますが、携帯トイレの使用方法及び処理方法について十分な知識の普及がなされているとは言えません。

◆当協会は、携帯トイレの活用方法などの周知を目的として令和5年4月より

「災害時のトイレ対策出前講座」を始めました。

<災害時のトイレ対策出前講座の実績>

令和5年度中には、地域や団体の活動にお邪魔するなどして、約15回、400人程度の方々に「出前講座」を受講していただきました。

<市内の小中学校での特別授業>

また、災害時のトイレ対策を含む特別授業の依頼を受け、令和5年6月と令和6年1月に特別授業（5・6限の計90分：参加者各50名程度）を行いました。

◆土曜日実施の「トイレ対策講座」について

今回、平日に実施している「出前講座」とは別に、若江岩田駅前のイコーラム6F学習室をお借りして、土曜日の午後に、個人で申し込み、参加ができる「災害時のトイレ対策講座」を企画しました。みなさま、ぜひ、お申込みください。

【災害時のトイレ対策講座のご案内】

内容：災害時のトイレ対策及び疑似し尿を用いた携帯トイレの訓練（費用は無料）

所要時間：60分程度（携帯トイレの訓練含む）

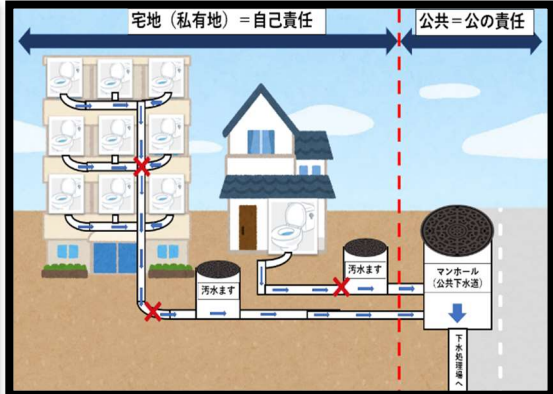
実施場所：イコーラム6F学習室（若江岩田駅北側）

実施日時：令和6年9月14日（土）13時30分～ 15時30分～

定員：各回25名（申込先着順）

申込先：環境事業課 TEL072-966-6675 FAX072-966-6683 担当前田・坂田

<災害時のトイレ対策講座の資料及び携帯トイレ訓練の様子>



トイレをするのが
ストレス

- 臭い・汚い
- 段差がある
- 男女共用・暗い
- 怖い・数が少ない等

水分を取らない
食事を我慢する

- ・トイレに行くのが
苦痛だから

体調不良になる

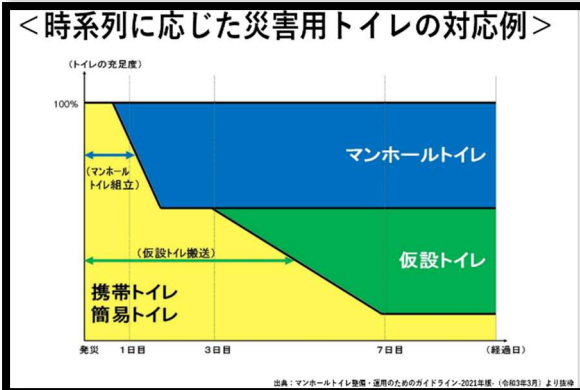
- ・交感神経緊張
- ・脱水
- ・低体温
- ・免疫力低下
- ・血液粘度上昇等 等

深刻な健康被害

- ・心筋梗塞
- ・脳梗塞
- ・肺炎性症
- ・心不全
- ・インフルエンザ
- ・肺炎
- ・尿路感染症
- ・膀胱炎
- ・下痢/便秘
- ・ノロウイルス 等

大きな災害が起きたとき、
水洗トイレが使えるかどうか困ったら、
まずは、「**携帯トイレ**」をしよう！

水洗トイレが使えるようになったら外すだけ〜



<携帯トイレ必要数の算定>

(計算式)

人数 × 1日トイレ回数 × 備蓄日数

(例：4人家族が1週間備蓄する場合)

4人 × 7回 (1日トイレに行く回数) × 7日間 (備蓄日数)

合計 196個必要



<小学6年生を対象とした特別授業の資料及び携帯トイレ訓練の様子>

人類の発展とトイレ

【中世ヨーロッパの街はウンチだらけ？】

市民は「おまる」にウンチやおシッコをため、たまると外の決められた場所に捨てていました。しかしわざわざ捨てて行くのが面倒になったため、建物の窓から道路に直接捨てるというのが流行ったそうです。

不衛生な環境は疫病（えきびょう）を流行らせる

● 1826～1837年に世界中でコレラが流行

コレラを死神に例えた出版物（1912年フランス）

人とトイレの歴史（日本）

公衆衛生を守る仕事は大切

トイレを守る「くみとり」の仕事をする人が消えてしまったら、大きな災害が起きた時、街中にウンチやおシッコがあふれることになるかも知れません。「くみとり」や「ごみ収集・処理」などの公衆衛生（まちをキレイに保つこと）に関わる仕事は、みんなが安心して生活できる世界を守る役割を持つ、とても大切な仕事です。

キレイなトイレでいのちを守る

震災関連死の原因には、避難生活の悪化があります。みんなが安心して「キレイなトイレを使えない生活」は、いのちに関わる大切な問題です。災害から、一度は助かったいのち、救えなはずのいのちを守ることは、私たちの大切な課題です。

